

PROFILE

1969年熊本県生まれ。夫と子どもの4人家族。トランポリンを中心に、子どもも大人も楽しめる運動の教室を運営。



トランポリンの  
跳躍が感じさせた  
「やってやれない  
ことはない」

おやこスタジオ RAFIT

熊本市中央区薬園町8-41  
TEL : 096-288-0748  
URL : <http://rafit.jp/>

2010年	2006年	2004年	2002年	1997年
おやこスタジオ RAFIT オープン	世界女性スポーツ会議のボランティア参加	第2子出産。サークルトランポリンクラブカンガルーぼう立ち上げ	トランポリンと出会う	第1子出産

輝きの軌跡

坂口京子さんの  
キャリアストーリー

取材担当  
熊本学園大学2年  
原奈菜絵

—おやこスタジオ RAFIT では、どのようなことをされていますか。

坂口 子どもの体力や社会性、親子のコミュニケーションを育むことを目的にした講座とトランポリン教室を運営しています。サークル出張では、絵本ヨガや産後ケア、運動遊びなどを行っています。

—トランポリンと坂口さんの出会いは？

坂口 子どもと出かけた熊本市現代美術館に、トランポリンで「跳ぶ」体験コーナーがあり、親子で挑戦したことがきっかけです。子どもは跳べたのに、私は全く跳べなかったことで興味を持ちました。親子で教室に通い、体を動かしていると、体調がよくなり、子育てや生活も楽しめるようになってきました。重力にしばられずに跳んでいるうちに「なんだか分からないけど楽しい」とか、大人になって「できなかったことができるようになる」という経験ができたことが衝撃的でした。

—教室を運営することになった経緯を教えてください。

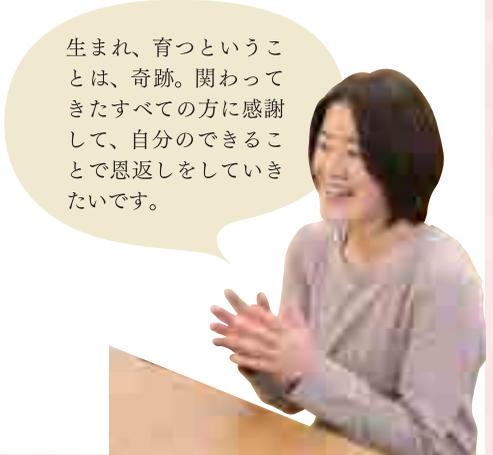
坂口 産後の体調不良が劇的に改善し、二人目不妊の悩みも解消できたことで、サークルを立ち上げました。初めてのイベントに60組の親子が参

加してくれ、「みんなに喜んでもらえることなんだ！」と勇気づけられましたね。参加者が次第に集まり、月1回から始めて、現在では、毎日2～3レッスンを開催しています。10年かけてゆっくり大きくなり、4年前に現在のスタジオ運営を始めました。  
—やりがいを感じるのはどんな時ですか。

坂口 できなかったことができた瞬間、子どもたちの鼻がちょっと高くなるんです。「どうだ！」って感じで。そんな、子どもたちの成長を感じる瞬間が好きです。

—今、20歳だったらどんなことをしたいですか。

坂口 戻りたい！(笑) 世界中や被災地へ行って、遊びながら運動できる場を提供したいです。



生まれ、育つということは、奇跡。関わってきたすべての方に感謝して、自分のできること恩返しをしていきたいです。